

News Release

2020年8月4日

この資料は BASF 本社(ドイツ)が 2020 年 7 月 28 日に発表した英語のプレスリリースを BASF ジャパンが日本語に翻訳・編集したものです。

BASF、全製品のカーボンフットプリントを算出

- 約 45,000 の製品で構成される全ポートフォリオについて、透明性のある排出量データを化学会社として初めて提供
- BASF のフェアブント(統合生産)のデータと新たなデジタルアプリケーションにより、お客様の活動および最終製品に関するカーボンフットプリントのより正確な測定と削減を支援
- BASF はすでに、再生可能原料またはリサイクル原料由来のカーボンフットプリントの低い製品を、マスバランス方式に基づいてお客様に提供

BASF(本社:ドイツ ルートヴィッヒスハーフェン)は、全製品の二酸化炭素排出量、いわゆる「カーボンフットプリント」の合計値をお客様に提供します。製品カーボンフットプリント(Product Carbon Footprint / PCF)は、原料の調達から、生産工程におけるエネルギーの使用、さらには BASF 製品がお客様のもとに向けて工場から出荷されるまでに発生する、製品に関連した全ての温室効果ガス排出量で構成されます。

BASF 取締役会会長の Dr. マーティン・ブルーダーミュラーは、次のように述べています。「サステナビリティとデジタル化は、私たちが一貫して実践している企業戦略の中心的な要素です。カーボンフットプリントを算出することで、この 2 つの要素を同時に実現するとともに、BASF の各製品の排出量について、お客様にさらなる透明性を示すことができます。これにより、消費者向けの最終製品にいたるまでのバリューチェーンにおいて、お客様とともに二酸化炭素排出量の削減計画を構築できるようになります。」

お問い合わせ:
BASF ジャパン株式会社
コミュニケーションズ部
馬込 綾子
TEL: 03-5290-2511
FAX: 03-5290-3333
ayako.magome@basf.com

BASF ジャパン株式会社
住所: 〒103-0022
東京都中央区日本橋室町 3-4-4
OVOL 日本橋ビル 3 階
TEL: 03-5290-3000
FAX: 03-5290-3333
<https://www.basf.com/jp>

BASF では 2007 年より、特定の製品について PCF の算出を行ってきました。社内でデジタルソリューションを開発したことで、今後は BASF の製品約 45,000 点の PCF を世界規模で算出することが可能です。今後数カ月以内に一部の製品および顧客セグメントでの算出を開始し、2021 年末までに全ポートフォリオの PCF データを利用できるようにする予定です。

コーポレートサステナビリティ部門を率いるクリストフ・イエケルは、「環境保護は、私たちのお客様にとってますます重要な課題となっています。今後は、お客様が気候関連の目標を達成できるよう、信頼性の高いデータをもってサポートしていきます。PCF を活用することで、お客様は温室効果ガス排出の回避につながるポイントがどこにあるのかを特定できるようになります。一部製品については、私たちはすでに、代替原料や再生可能エネルギーを使用することでカーボンフットプリントを削減する機会をお客様に提供しています」と述べています。

例えば BASF のバイオマスバランス・アプローチでは、生産フェアブント(統合生産)において化石資源を有機廃棄物や植物油由来の再生可能原料に置き換え、その量を算出して製品に割り当てています。また、ChemCycling™ プロジェクトでも、マスバランス方式を採用しています。BASF は 2020 年より、ケミカルリサイクルしたプラスチック廃棄物をバリューチェーンの初期段階において原料として使用した製品を、初めて商業規模でお客様に提供しています。両アプローチによる BASF の製品は、純粋な化石原料由来の製品と同等の特性を持っていますが、カーボンフットプリントは軽減されています。

環境保護は BASF の戦略の重要な要素です。BASF は今後の成長にもかかわらず、2030 年まで生産関連の排出量を一定に抑えるという目標を設定しています。BASF は生産・プロセス効率の向上、再生可能エネルギー源からの電力調達、革新的な低排出プロセスの構築という、三方向からのアプローチを追及していきます。

比較可能な基準の必要性

BASF は 25 年間、様々なサステナビリティ評価方法を活用してきました。これには、「[SEEBalance®](#)」や「[サステナブル・ソリューション・ステアリング](#)」などで現在使用している、サステナビリティへの貢献度を測定するためのデータ収集やデータ処理なども含まれます。BASF の PCF 算出は、生産ネットワークにおける排出量を集積した十分なデータと、調達した原料やエネルギーに関する質の高い平均化データに基づいて行われま

す。この手法は、ISO 14044 や ISO 14067、温室効果ガス(GHG)プロトコル製品基準などの、ライフサイクル分析の一般的な基準に沿ったものです。

BASF は、業界全体で平等な条件のもとで製品の比較を可能にする基準を構築するため、化学業界における PCF 算出用の製品向けガイドラインの導入に注力しています。「私たちは様々なパートナーと協力し、標準化を推進していきます」とイエケルは述べています。

※このプレスリリースの内容および解釈については英語のオリジナルが優先されます。

■BASFについて

BASF(ビーエーエスエフ)は、ドイツ ルートヴィッヒスハーフェンに本社を置く総合化学会社です。持続可能な将来のために化学でいい関係をつくることを企業目的とし、環境保護と社会的責任の追及、経済的な成功の3つを同時に果たしています。また、全世界で117,000人以上の社員を有し、世界中のほぼすべての産業に関わるお客様に貢献できるよう努めています。ポートフォリオは、6つの事業セグメント(ケミカル、マテリアル、インダストリアル・ソリューション、サーフェステクノロジー、ニュートリション&ケア、アグロソリューション)から成ります。2019年のBASFの売上高は590億ユーロでした。BASF株式はフランクフルト証券取引所(BAS)に上場しているほか、米国預託証券(BASFY)として取引されています。BASFの詳細な情報は、<http://www.basf.com>をご覧ください。